

谷口正作さん

(厚生省大臣官房政策課長)

厚生省で外国人医療問題を担当している同省大臣官房政策課の谷口正作課長

に聞いた。

—公的医療保険を、

人道的見地から不法滞在外国人にも適用することほできないか。

「適法に滞在している外国人には、内外人平等の原則で、公的な医療保障の仕組みを取っている。しかし不法滞在外国人を対象に公的な医療保障を行うのは、不法滞在を容認し、



でも公費で医療保障する制度は考えられないか。

—人道・国際的に問題視されかねないか。

「公的資金で医療費を充当することは、保険ではないが形を交えた公的医療保障であり、同じ理由で困難だ。救急患者に限って、同じ理由で困難だ。労働(外国人)は受け入れないという基本方針がある。非常に苦しい問題だが、片方で国外退去の調査をし、片

公的な保障は困難

方では公的な医療保障をするというの

—外国人の医療費を支払うための基金の設立構想が浮上しているか。

「推察するに、公的保障が無理なら民間で何らかの基金を、というところだが、具体的な中身がはっきりしておらず「コメントできない」

インタビュー

小林 米幸さん

(アジア医師連国際医療情報センター所長)

アジア医師

連絡協議会

(本部岡山)

の国際医療情

報センター(東京都世田

谷区)所長として在日外

国人からの医療相談を受

けながら、神奈川県大和

市で開業する小林米幸医

師に外国人医療の在り方

について聞いた。



相談電話が毎月100本

「一昨年四月から始め、常勤のスタッフを置いて外国人からの電話での医療相談に応じている。月平均百本近い電話が入る。病院の紹介依頼や日本の医療制度の問い合わせが多い。この活動で医療問題で困っている外国人にきちんと考えてもらいたい。国民投票するくらいの問題だと思う。ただしそれを解決しないと外国人の医療問題が片付かないわけではない」

「外国人単純労働者を受け入れるかどうかは、人の相当な部分が吸い上げられるかを考えると、外国人も病院に掛かりやすくなり、病院の未収ももっと少なくなるはず。一本滞在外国人が日本で医療を受けられなかったり、病院の未収金発生の問題もある。」「外国人単純労働者がある」

「一つは医師と患者の医療の進め方の問題だ。医療機関が患者の支払い可能な範囲内で最大限の診察をし、医療費をいかに安